

第13回 遠山藤原学校

—長野県最南部の遠山郷で、藤原直哉と21世紀的ライフスタイルを学ぶ—

特集：遠山郷で里山に遊ぶ2日間 —9月末：遠山郷の遠足—



研修日程：2010年9月25日（土）・26日（日）の2日間

研修場所：長野県飯田市南信濃地区（遠山郷）

研修主催：シンクタンク藤原事務所

研修協力：遠山郷観光協会

< 1、研修の内容 >

このたびは、第 13 回遠山藤原学校の資料請求をしていただき、まことにありがとうございます。遠山郷は長野県の最南端、飯田市の南信濃・上村地方の山深い谷にあり、飛騨の白川郷、越後の秋山郷と並んで、日本三大秘境のひとつとされています。

国の重要無形民俗文化財に指定されている遠山郷の霜月祭、神様の湯治場の伝説がある秘境の谷に湧いた天然温泉、遠山温泉郷「かぐらの湯」、日本のチロルと言われる下栗の里、南アルプスの雄大なパノラマを望むしらびそ高原、南アルプスの恵みをたっぷり含んだ名水・観音霊水など、数多くの伝統文化や雄大な自然が残っており、人と自然の本物の共生を体験したい人には、絶対お勧めの地域です。

さらに遠山郷は人情の里でもあります。遠山郷の人たちはとても人情味溢れた人たちで、特に都会の人たちとの交流が大好きです。そのため山村にありがちな閉鎖的で暗い雰囲気ではなくて、底抜けに明るくて建設的な雰囲気を、ここを訪れるみなさんに感じていただくことができます。特にこの研修では夜の懇親会に地元の有志をお招きして、共に食卓を囲み、お酒をいただき、楽しく交流していただきます。そうした心のふれあいがとても自然に、とても楽しく毎回行われるのも、人情の里、遠山郷の非常に大きな魅力です。

3年前から始まった遠山藤原学校は毎年、参加者が増えていまして、今年は3月から12月までの毎月開催となりました。そして今年のテーマは「遠山郷の里山に遊ぶ2日間」です。里山というのは、人が住む里と、人が行かない深山の間にある山のことで、里に暮らす人たちの生活のために手を入れられている山のことで、里では人と動物、自然が共生していて、本当に日本の原風景とも言えるような姿がそこにはあります。特に戦後の近代化のなかで全国各地の里山が荒廃し、自然の生態系や人との共生生活が崩れてしまった場所が多く、遠山郷も例外ではありません。既に限界集落になっている場所も多い遠山郷では、我々のように外から来た人たちも手伝って、何とか里山を復活し、遠山郷にかつての賑わいを取り戻そうという動きが本格化しつつあります。そこで今回の研修では里山の魅力をみなさんに味わっていただき、里山を中心にした日本の原風景を堪能していただきます。そして2日目の午後には現地で、藤原直哉が「乱世の生き方・気持ちの持ち方」というタイトルで講演を致します。

ちなみに、今年12月までの毎月の予定は以下のようになっています（見学や体験の内容は地元、講師の事情や天候によって変更の可能性あり）。すべて土日です。

10月30・31日：遠山郷・秋の芸術祭

遠山郷の写真教室（水野秀彦氏、できれば紅葉の盛りの遠山川の源流を便ヶ島まで入ります）
+ 遠山郷のジャズコンサート+畑作業+藤原直哉講演「藤原直哉の精神世界」

11月27・28日：遠山郷の秘境、青崩峠を訪ねる

晩秋の青崩峠をハイキング+遠山郷ミニ観光+畑作業+藤原直哉講演「2011年を考える」

12月4・5日：遠山郷の霜月祭り

遠山郷の祭り、国の重要無形民俗文化財・熊野神社の霜月祭りに参加

以下、体験研修の概要をご紹介します。

まず、1日目は12時20分に、遠山郷の中心、和田地区にあります国道152号線沿いの道の駅「遠山郷」内の、アンバマイ館という遠山郷観光協会の施設に集合していただきます。ここまで電車でお越しの方は、JR飯田線の平岡駅からスタッフが車でお迎えいたしま

す。なお当日東京からお越しの方は、東京8時33分発のひかり505号にご乗車いただき、豊橋で飯田線の特急伊那路1号に乗り換えて、平岡には11時57分に到着します。

ここで「アンバマイ館」という名前の由来ですが、「あんばまいか」というこの地方の方言からとったもので、「遊びましょう」という意味です。方言には標準語にはない温かみがあります。また遠山郷では方言で、よく語尾に「だに」をつけます。地元の方と話をすると必ずといっていいほど聞くことができる方言です。

今回の研修ではアンバマイ館に集合していただいてからみなさんに自己紹介をしていただきます。それからマイクロバスで、中根地区の熊谷治郎さん宅に伺い、ゆっくりと焼き肉昼食パーティーを開きます。遠山郷ではお客様をもてなす最高の料理が昔から山肉の焼き肉なのです(なお、お魚も出ますので、お肉を召し上がらない方でも大丈夫です)。熊谷さん宅は、遠山郷でも有数の急斜面にあり、囲炉裏をしつらえたお部屋からは天気良ければ南アルプスの主峰、聖岳(ひじりだけ)をはじめとした山と谷の絶景をご覧いただけます。長年森林整備作業をしてこられた熊谷さんは実は遠山郷を代表する炭焼きの名人で、氏が40年間焼き続けた非売品の匠の炭、「治郎炭」は縁ある方にしかお分けいただけません。今回は熊谷さんのご厚意で、「治郎炭」を使って焼き肉などを作らせていただきます。さらに熊谷さんのお宅の前には大きな栗の木があり、ちょうど栗拾いができる時期だと思しますので、みなさんで栗拾いもしたいと思います。下の写真左側は、熊谷さん宅から見た南アルプスの主峰です。真ん中はお宅の周囲に広がる急斜面の畑、そして右側の写真、右端が熊谷治郎さんです。



そして、治郎炭の炭焼き釜と、焼き上がった治郎炭、いろりにくべた治郎炭。



さらに今回パーティーを開かせていただくお部屋(窓の先は南アルプス)と栗の木です。



パーティーの前後にはこの中根地区の街並みを歩いて、遠山郷の雄大な自然と、その自然の中でたくましく暮らす人々の生活を垣間見ていただこうと思います。

それから遠山郷の木沢地区にある、木造校舎の廃校を利用した地域活性化施設、旧木沢小学校に向かいます。旧木沢小学校は平成3年に休校、平成11年に廃校となった地元の小学校で、現在でも残る懐かしい木造校舎は、昭和7年に地元の人々の情熱によって建てられたものです。そのため廃校後も何とかこの木造校舎を保存し、同時にここを地域活性化の拠点とすべく、地元の有志が木沢地区活性化推進協議会という団体をつくって木造校舎の維持管理を行っています。校内の教室には遠山郷の霜月祭り、地元を走っていた森林鉄道である遠山森林鉄道、南アルプスの登山道整備などを行っている遠山山の会、昭和時代の遠山郷の写真などが展示されているほか、藤原直哉の蔵書3千冊を寄贈した藤原文庫もあります。さらにここには年間を通じて多くの方が見学に訪れ、また空き教室を利用した講演会や集会、交流会、映画の撮影などがたびたび開かれていて、まさに地元の方と来訪される方との貴重な交流の場にもなっています。そしてこの小学校のすぐ隣に遠山藤原学校の事務所があり、その隣には、遠山藤原学校観光農園があります。この農園は廃耕地となっていた畑をお借りして、当社で募った遠山郷ボランティアと地元のみなさんが力を合わせて2年前に開いたばかりの農園で、遠山藤原学校における木沢地区の里山整備の拠点にしている場所です。今回はここで遠山藤原学校スタッフのリードで1時間半ほど、農作業実習を行っていただきます。農作業はみんなでやるととても楽しいものです。遠山郷ののどかな里山のなかに広がる観光農園で、自然と触れ合う楽しいひとときをお過ごしください。

それから和田地区に向かいます。途中、遠山郷の霜月祭りが開催される熊野神社に寄ります。ここでは遠山藤原学校も特別氏子として、12月の第1日曜日に開催される霜月祭りに参加しております。実は熊野神社の拝殿の前の地面に手をかざすと、不思議と気を感じます。それが何に由来する気かはわからないのですが、とにかく気の出る神社です。さらに途中の小道木（こどうき）地区で遠山川の河原に下りて散策をしたいと思います。ここには河原に埋まっている埋没木があります。埋没木は今から1300年ほど前に一瞬の山崩れで埋没してしまった、当時の樹齢数百年のヒノキやケヤキの立ち木が近年露出したものです。ヒノキなどは今でもヒノキの香りが漂い、古代の木の命をそのまま感じることができます。

そして和田地区では、遠山温泉郷かぐらの湯にお入りいただきます。かぐらの湯は地元で沸く温泉で、源泉温度42.5度の全国でも珍しい高濃度塩化物温泉（ナトリウム・カルシウム塩化物温泉）です。大変豪快な露天風呂もあり、今日一日の疲れを遠山の気がみなぎった温泉でゆっくりと癒してください。この地域は日本列島を東西に走る中央構造線という大断層のために地形が非常に複雑で、地質学的にも謎が多い場所です。この温泉もそういう複雑な地質が生んだ珍しい温泉で、ファンが増えています。お泊まりは、遠山郷の八重河内（やえごうち）地区にある、いろりの宿、島畑です。ここは遠山郷で最も人気の高いお宿のひとつで、四季を通じて多くの観光客、釣り客、登山客、商用客が訪れます。ぜひ遠山郷の郷土料理をお楽しみください。

夕食・懇親会が終わってからは、ご希望の方を地元のカラオケスナック「舞夢（まいむ）」へお連れします。実は毎回、遠山藤原学校はこの二次会の舞夢が大変盛り上がるのです。参加者の皆さんが本当にリラックスして語り合い、歌う姿はとても明るく温かい雰囲気になっています。どうぞ秋の気配が漂う遠山の夜を舞夢で元気にお楽しみください。

2日目は朝7時にご朝食、8時にマイクロバスで出発します。まず和田地区の中心街、江戸時代から伝わる国道152号線・秋葉街道の宿場町、和田宿を通過して、この地域を治めていた遠山氏の菩提寺、龍淵寺に行きます。そして境内に沸く観音霊水をいただきます。観音霊水は江戸時代に徳川氏に滅ぼされたこの地域の豪族、遠山氏の居城に4百年以上前から湧いているお水で、真夏や早魃でも枯れずにいつも冷たくておいしい水がコンコンと湧いています。そのお水を近年専門家に調べてもらったところ、カルシウムやマグネシウムの含有量が日本で最も多い、すばらしい名水であることがわかり、最近では地元や近郊の方はもちろんのこと、東京や大阪から百リットルも2百リットルもお水を汲みに来る方がおられます。こういう硬水は味にクセが強いことが多いのですが、観音霊水は硬水でありながら大変口当

たりがよく、特にコーヒーや紅茶にして飲むとおいしく、また日持ちが大変良いので、非常用のお水としても汲みに来る方が絶えません。また境内には樹齢5百年の**観音大杉**があります。これは根元が一体となった4本の杉で、家族和合のしるしとして、参詣する人が絶えません。

そして観音霊水の隣にある「**殿町の茶屋**」に行きます。ここは地元の女性たちが経営しているお饅頭屋さんで、名物の**ふじ姫饅頭**はその日の朝に作って売切れたら終わりという非常に人気の高いお饅頭です。遠隔地から来られる方はどうしても遠山郷に来るのが午後になってしまい、何度来ても売り切れで食べられないという幻の饅頭でもあります。よもぎとそばの2種類の饅頭が8個入って千円のふじ姫饅頭は、遠山郷の外はもちろんのこと、遠山郷のなかでもこの殿町の茶屋でしか販売されておらず、ファンが絶えません。さらにここではお店の方がお客さんにお茶やお漬物を接待してくださり、多くの方が地元のみなさんの暖かい人情に触れて感激していかれます。

そしてその後、マイクロバスで飯田市の中心部にあります、**川本喜八郎人形美術館**に向かいます。実は長野県飯田市は古くから人形劇の街として有名です。3百年余りの歴史があり、現在も人形芝居が地元で開かれています。そして1979年からは日本最大の人形劇フェスティバルが開催されていて、国内外から多くのファンが集まります。そしてNHKの人形ドラマ、三国志、平家物語などを製作された人形美術家、アニメーション作家の川本喜八郎氏も1990年から飯田市で活躍してこられ、当美術館には氏が製作された人形等が展示されています。大変繊細で美しい人形は、可憐な美しさをたたえる飯田市の雰囲気ぴったりにです。実は長野県飯田市というのは東京から最も「遠い」街のひとつであることにお気づきでしょうか。直線距離で見れば東京と名古屋の間ですが、新幹線も飛行機も直通の特急もないために、主たる交通機関である高速バスで新宿から4時間かかります。これだけ交通の発達した時代に、急いでも4時間かかる主要都市というのは珍しいと思います。しかしだからこそ今の時代に失われていない何かが残っている街でもあり、人形劇もそのひとつだと思います。

それからさらにマイクロバスで、新制中学校校舎として全国で初めての国登録有形文化財に指定された、飯田市竹佐地区の**杵原(きねはら)学校**に向かいます。ここは昭和24年に新制山本中学校として建築された校舎で、地元の皆さんが杵原学校応援団を作り、旧校舎を保存して、地域活性化と子供や大人の交流施設として多目的に利用されています。上述の木沢地区活性化推進協議会とも連携があり、古い木造校舎に愛着と新しいエネルギーを求める方々が全国から訪れています。今回は、杵原学校応援団料理部門の方と一緒に郷土料理を作り、参加者全員で昼食会を楽しみたいと思います。その後は学校の校舎で**藤原直哉の講演、「乱世の生き方・気持ちの持ち方」**をお聴きください。






そしてマイクロバスで再び道の駅「遠山郷」に戻り、午後3時45分に解散。平岡駅まで車でお送りいたします。電車で東京方面にお帰りの方は、平岡を16時42分に出る特急伊那路4号で豊橋に行き、豊橋からひかり526号に乗り換えて、東京には20時10分に到着します。

今回も盛りだくさんの内容ですが、縁ある数多くの方々に遠山郷の自然と人情、そしてそのなかで生きる喜びを味わっていただき、遠山郷の里山に遊んでいただいて、遠山郷のファンとなり、21世紀を明るく元気に生きるための、たくさんの知恵と実力を得ていただきたいと思います。一人でも多くの方のご参加を心からお待ちしております。

2010年9月吉日
シンクタンク藤原事務所
経済アナリスト 藤原直哉

< 2、研修日程表 >

9月25日（土）

時間	予定	写真
12:20	集合 <u>道の駅「遠山郷」内、アンバマイ館に集合</u> 研修の説明と参加者の自己紹介、スタッフ挨拶	
12:30 13:00	出発 到着 マイクロバスにて中根地区の熊谷治郎氏宅へ バスを降りて坂道を15分ほど下り、お宅へ。 南アルプスを一望しながら昼食。また栗拾い	
15:00 15:30	出発 到着 マイクロバスで出発 旧木沢小学校到着。農園作業	
17:00 17:45	出発 到着 和田地区へ向けて出発。途中、熊野神社、埋没木 天然温泉かぐらの湯に到着、入浴	
18:40 18:50	出発 到着 いろいろの宿、島畑へ出発 島畑到着	
19:00 21:00	夕食 出発 島畑にて、夕食・懇親会 希望者は二次会に、舞夢へ	
	<u>熱中症対策のため、みなさん、</u> <u>ペットボトルあるいは水筒、そして</u> <u>風通しのよい帽子をご用意ください。</u>	
	<u>朝晩冷えることがありますので、念の</u> <u>ため、長袖を1着お持ちください。</u>	
	<u>また、農園作業を行いますので、作業</u> <u>着と軍手をお持ち下さい。長靴は用意</u> <u>してあります。</u>	
		
		

アンバマイ館

旧木沢小学校

熊野神社（気の出る神社）

遠山藤原学校観光農園

9月26日(日)

時間	予定		写真
7:00	朝食	島畑	
8:00	出発	マイクロバスにて和田地区へ出発	
8:10	到着	和田地区を見学。和田宿、観音霊水、観音大杉、殿町の茶屋など	
8:40	出発	マイクロバスにて飯田市中心部へ出発	
9:40	到着	川本喜八郎美術館へ到着、見学	
10:40	出発	杵原学校へ出発	
11:10	到着	杵原学校へ到着。見学および調理実習	
13:00	講演	藤原直哉講演会「乱世の生き方・気持ちの持ち方」	
14:30	終了		
14:40	出発	マイクロバスで道の駅「遠山郷」へ	
15:40	到着		
<u>15:45</u>	解散	列車でお越しの方は、JR 飯田線の平岡駅までお送りします。道の駅「遠山郷」にお車を駐車の方は駐車場までお送りします。豊橋方面行特急は16:42発です。	
			
			<p data-bbox="1235 712 1331 745">埋没木</p> <p data-bbox="1203 1048 1362 1081">殿町の茶屋</p>
			
			<p data-bbox="1129 1424 1436 1458">川本喜八郎人形美術館</p>
			
			<p data-bbox="1219 1760 1347 1794">杵原学校</p>

< 3. 研修費用 >

研修費用 大人 1名	20,000円
学生 (大学生・専門学校生以下、中学生以上) 1名	10,000円
子供 (小学生以下) 1名	5,000円
なお、お食事とお布団の事前のご用意が必要でない乳児は無料です	

(1) 研修費用に含まれるもの

・ 宿泊料金	原則として相部屋です。ご家族での一部屋でのお泊りはできる限り配慮させていただきますが、保証はできませんのでご容赦ください。宿泊は、 いろいろの宿 島畑 〒399-1312 長野県飯田市南信濃八重河内580 TEL 0260-34-2286 FAX 0260-34-2281
・ 食事料金	日程表に記載された昼食2回、夕食および懇親会1回、朝食1回 (なお、子供料金にてご参加の方は、1日目の夕食がお子様定食です)
・ 講演料 ・ 研修・参加費用 ・ 温泉入浴料 ・ 遠山郷内交通費 ・ 管理料 ・ 旅行保険料	日程表に記載された藤原直哉講演会の講演料、入館料、ガイド料、施設使用料・管理料、温泉入浴料、遠山郷内交通費、下記旅行保険料
・ 研修講師	シンクタンク藤原事務所 藤原直哉
・ 旅行保険	(限度額お一人様死亡障害4千万円)

(2) 研修費用に含まれないもの

・ 個人的性質の費用	タバコ、洗濯、電報電話、お酒・ジュース等の飲み物、お土産、個人の飲食などは個人負担をお願いします
------------	--

< 4. 研修要領 >

募集人員	<p>20名（最小催行人数：5名） なお、先着順にお申し込みをお受けし、定員になり次第締め切ります。 参加申込書をシンクタンク藤原事務所宛てにお送りください （FAX または郵送でお願いします）</p>	
研修代金	<p>2010年9月17日（金）までに、研修代金の全額を以下の口座へお振込みください。 郵便局 記号：10250 番号：89520371 口座名義：有限会社藤原事務所 または ゆうちょ銀行（郵便局） 店名：〇二八（ゼロ二ハチ） 店番：028 預金種目：普通預金 口座番号：8952037 口座名義：有限会社藤原事務所</p>	
取消料	<p>お申し込み後、お客様の都合でお取り消しになる場合、当方の手続きを開始または完了している場合は、次の取消料を申し受けます。</p>	
	<p>出発日の前日より起算して1ヶ月前まで</p>	<p>大人1万円 学生5千円 子供2千5百円</p>
	<p>出発日の前日より起算して2週間前まで</p>	<p>参加費用の40%</p>
	<p>出発日の前々日および前日</p>	<p>参加費用の50%</p>
	<p>出発日の当日又は無連絡不参加の場合</p>	<p>参加費用の80%</p>
	<p>研修開始後</p>	<p>参加費用の100%</p>
研修主催（お問い合わせ）	<p>シンクタンク藤原事務所 〒250-0055 神奈川県小田原市久野849-10 電話 0465-32-1791 FAX 0465-32-1794 電子メール higuchi@fujiwaraoffice.co.jp 担当 樋口敬子（ひぐち けいこ）</p> <p><u>なお、当日の緊急連絡は、藤原直哉の携帯電話へお願いします。</u> <u>090-3046-6354</u></p>	

< 5. 研修概要 >

・ 研修名称	第13回 遠山藤原学校
・ 日時	2010年9月25日(土)・9月26日(日)の2日間
・ 研修場所	長野県飯田市南信濃地区、飯田市中心部等
・ 集合・解散場所	現地 集合：25日(土) 12:20 道の駅「遠山郷」内、アンバマイ館 (0260-34-1071) 解散：26日(日) 15:45 道の駅「遠山郷」内、アンバマイ館 (0260-34-1071) <u>なお、当日の緊急連絡は、藤原直哉の携帯電話へお願いします。</u> <u>090-3046-6354</u>
・ 研修内容	各種見学、実習、講演など
・ 研修講師	シンクタンク藤原事務所 藤原直哉

< 6. 集合・解散場所まで/からの交通手段 (ご参考) >

(1) 自家用車でお越しの場合	集合・解散場所： 長野県飯田市南信濃和田 548-1 道の駅「遠山郷」内、 観光案内所「アンバマイ館」 (電話 0260-34-1071) 中央高速道 飯田または松川インターチェンジまで 約70分。または、兵越峠経由、東名高速道浜松インター チェンジまで、約2時間半。
(2) 電車でお越しの場合	東京方面から (行き) 東京 8:33 ひかり505号 豊橋 9:59 豊橋 10:08 特急伊那路1号 平岡 11:57 下車後 道の駅「遠山郷」まで車で20分 (帰り) 旧木沢小学校から平岡駅まで車で30分 平岡 16:42 特急伊那路4号 豊橋 18:31 豊橋 18:43 ひかり526号 東京 20:10

< 7. 注意事項、および持ち物など >

- ・ 熱中症対策のため、ペットボトルあるいは水筒、そして風通しのよい帽子をお持ち下さい。
- ・ 農園作業をしますので、汚れてもよい作業着と軍手をお持ちください。長靴は当方で用意します。
- ・ 朝晩冷えることがありますので、念のため、長袖を1着お持ちください。
- ・ 山道のため、自家用車の運転や乗り物酔いにはくれぐれもご注意ください。
- ・ 乗り物酔いをご心配の方は、酔い止め薬を服用されることをお勧めします。
- ・ なお、携帯電話は、電波が届かない場所があります。

申 込 書

第13回 遠山藤原学校 9月25・26日

ご記入日： 年 月 日

どちらかを選択してください ・ 自家用車でご参加 ・ 電車でご参加

フリガナ	性別	男 ・ 女
お名前	生年 月日	明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)
弊社お客様番号 (おわかりになる場合)		
フリガナ	性別	男 ・ 女
お名前	続柄	生年 月日
		明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)
フリガナ	性別	男 ・ 女
お名前	続柄	生年 月日
		明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)
フリガナ	性別	男 ・ 女
お名前	続柄	生年 月日
		明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)

■ ご連絡先について

ご自宅 会社・学校 ※どちらかにチェックをおつけください。

※ご連絡先が「会社・学校」の場合にご記入ください。

会社名 学校名等	部署： _____ 役職： _____		
ご連絡先 住所	〒 _____		
TEL	() _____	FAX	() _____
携帯電話	緊急時 連絡可・不可		
電子メール	@ _____		
喫煙の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
※部屋割りの参考にさせていただきます。			
●その他ご希望等ございましたらご記入ください。			

シンクタンク藤原事務所 担当：樋口敬子 〒250-0055 神奈川県小田原市久野849-10
TEL 0465-32-1791 E-Mail higuchi@fujiwaraoffice.co.jp

↑ FAX送信先：0465—32—1794 ↑

切り取り